

## 自然農法歳時記No.45北海道北見 無肥料 自然農法 秋場和弥 18.12.9.

悪戦苦闘の一年ようやく、新穀感謝の日までたどりつき、一年の反省を踏まえて、来年度の計画を策定する前に、今一言お詫びしなければなりません。

6年前、無我夢中で無肥料自然農産物の消費開拓していた頃、サン・スマイル代表松浦氏の誠実な訴えに快く耳を傾けて下さり、当時幻となりかかっていた、銀手亡、自然栽培の価値を認め、一肌も二肌も脱いで、力強くお使い頂いた結果、経営も軌道にのって、今日に到っております。

この銀手亡と遅霜対策としての雪手亡、田畑作北限地帯にあって、時には当地では当たり前のことではありますが、春先から天候上の厳しい試練を再三再四受けるたびに、歳時記で報告させて頂きましたので、或る程度は予想されていたと思いますが、銀手亡は3町歩で55袋、雪手亡にいたっては3町歩で10袋と、当事者の私でもその予想をはるかに上回ってしまう現実に直面して、今日まで心をくだいて下さった皆様にたくさんの御予約を頂きながら、多大な欠品となること、改めてお詫び申し上げる次第です。



上: 本年7月の銀手亡畑、5月の低温、発芽不良から欠株部分に種をまき直しました。  
下: 例年同時期の銀手亡畑。生育が違います。↘

七年前、六年前亡き恩師への誓いに応えて、新たに均ペイヤせ地をも加えて、全面積での無肥料ローテーションへの挑戦、2年続けたの500万円超の大赤字、もう一年続くと終わってしまいそうな時、暗中模索する中、伊藤さんから15年無農薬有機作付、その後2年間原野化している土地5町歩お借りする事となり、一方で豆の調整でお世話になっている沼田社長から、ツルが長く伸び、機械で自動収穫できず絶えかかっている幻の銀手亡、若干量種子あるので、試作してみないかとの提案、起死回生のキッカケの予感して、開墾地に作付けしたのが始まりでした。



栽培期間長い為、春の遅霜で、発芽間もないのが、全滅する可能性あるけれど、時差まき対応でなんとか軌道に乗せる事ができ、幻の自然農法秋場農園となりかかっていたのが、幻の銀手亡が甦えらせてくれました。

この6年浦和で、自然加工の菓子工場を営んでいる方に、節目節目で銀手亡、雪手亡を支える縁の下の力持ちになって頂いた事が、人の手間がたくさんかかった分、味良し、コクあり、化学、有機栽培では存在しない、価値ある豆として、その後多くの皆様のご支援を賜る、軸の働きをして頂いたこと、ほんとうにありがとうございました。

私共夫婦も多くの人手だけに頼らなければならない収穫作業である事など、眼中にはなく、必死で栽培し、雪予報の時など、朝まで車のライトを頼りに、月明かりのなか、作業をした事もございました。



左が人参、右は紫花豆、とら豆、大正金時、銀手亡の畑ですが、こちらは手前の堤防が決壊しほぼ全滅してしまいました。



一年半かかる自家採種を用いた人参花畑。「北の峰フルーティー」来年の母球(右上写真)は壊滅しましたが、この畑は今年奇跡的に二年分、数万の種がとれ、種が絶えずにすみました。

い最が雨  
ま終っの銀  
し的で中手  
たにか、亡  
こらス、  
のもコ人  
畑、ツ参  
も水プを  
収がで水  
穫流排害  
皆れ水か  
無続をら  
とけ掘守  
なてりる  
つい、た  
てま雨め  
しすが、  
ま。上豪



毎年毎年、必要迫られた時、そのつど、多くの方達の応援を頂いて、生産し続けてまいりましたが、綱渡りながら、自然界も必死の誠心に応えて下さり、需要に足りる供給量を与えて頂きました。

2001年試作開始、2002年本格生産開始。小豆等赤系は十分に手当てできていたけれど、白系でてくるのを待ちに待っていましたと、浦和の自然加工場さんに無理を言い30kg×約100袋全量受けて下さる。

2003年春の遅霜で、時差まき後半分全滅。代替に栽培期間短い雪手亡播種。なんとか、秋の早霜まぬかれ、浦和の加工場さんに、約束通り納品。

2004年霜対策として、面積増やしてお借りしていた伊藤さんの開墾地一杯に播種、霜被害なく大豊作の恵みとなり、皆様からご予約頂いていた2年分の収穫量となり、浦和の加工場さんには2005年、2006年2年越しでお使いいただきました。

2006年伊藤さんからの開墾地全面積返還となり、この5年ローテーション土地力進化相当改善されてきたけれど、もう一步のところへ、皆様のご注文にお応えしたく、天候の恵みを期待しながら銀手亡、雪手亡、それぞれ3町歩、計6町歩播種。順調にいけばまちがいなく、ご予約量確保できる面積でありましたが、何度もご報告させて頂いた惨状。

初めての大量欠品となった次第です。2001年の作付け開始以来ふりかかったピンチに対して、最善と想える対応は必ずチャンスにつながり、確実に収穫ができました。

今年はそうはいかず、皆様にご迷惑をかけてしまいました。そうであるなら尚更、未来につながるより多くの教訓を収穫物に変えて生かさなければならぬと想います。



秋場さんが産まれた年から栽培を始め、56年たった無肥料栽培の畑。ご夫婦で。(本年7月)  
畑作北限地帯での無肥料栽培技術の確立に今後も全力で歩む決心です。

その結果、当年の適地適作を考慮して現時点で考えられる、土地力進化5カ年計画の策定に到りました。

そして、先号でご案内申し上げましたが、この実施計画に沿って、今年度の新墾開拓3.2町歩、2009年からの親友小川明さんからの3.7町歩の申し入れとなっていた次第です。今回も長期的に

見てピンチはチャンスにつながったのかなと実感させて頂いております。  
12月7日「NHKプロフェッショナル 仕事の流儀」リンゴを無肥料無農薬で挑戦、7年間収穫ゼロの末、成功にこぎつけた木村秋則さん「リンゴを育てるのではなく、リンゴが育つのをお手伝いしてあげる」との発言、自然力を最大限とりこむ技術的提言と受けとめさせていただきました。

田畑作北限地帯において、作物が冷害を克服して、自ら力強く育つことができるようお手伝いの方法は、策定したローテーション計画を確実に遵守し、最良の天候の恵みを頂ける誠の尽くしの道を歩み続ける事と肝に命じ、2007年からの新たな歩みを開始させていただきます。



数年前 平年作の銀手亡の写真です。次期作は皆様にご迷惑をお掛けいたしませんように豊かな穰りがいただけますよう努めてまいります。